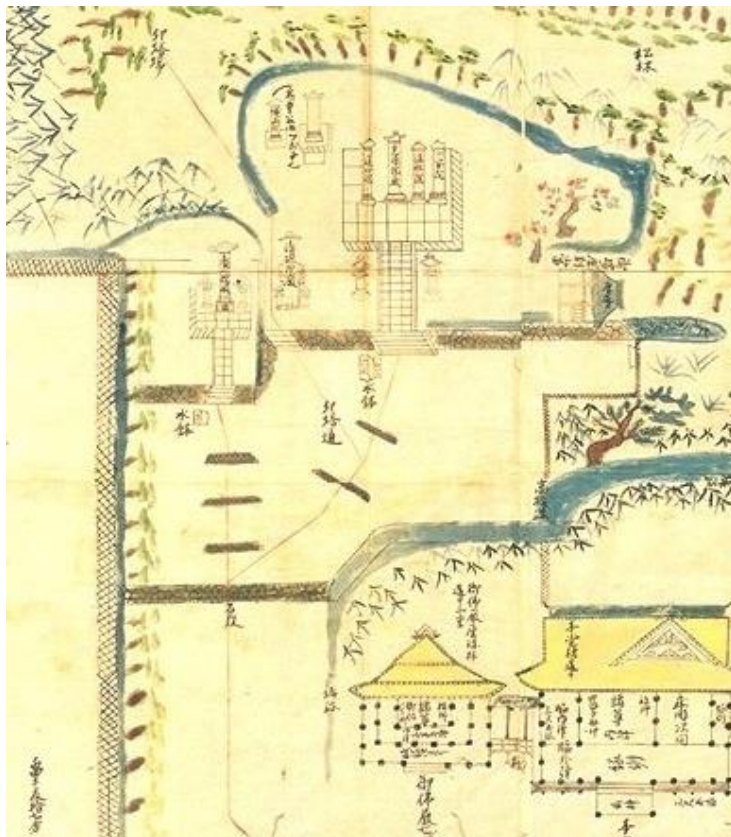


円妙寺と大福田寺

西羽 晃

桑名駅から桑高へ向かう登り坂の左にある石段を上ると円妙寺である。さらに桑高の方へ行くと、桑高の北側に墓地が見える。これが円妙寺の墓地である。墓地と建物が何故離れているのか、疑問に思われた方も居られるだろう。円妙寺は桑名藩主松平（久松）定良が明暦3（1657）年に逝去して、松平（久松）家の菩提寺である浄土宗の照源寺の横に、新たに日蓮宗の寺として建てられた菩提寺である。東北大学付属図書館に所蔵されている「桑名圓妙寺御繪圖」（元文3＝1730年原図の写し）を見ると境内は約9千坪もある大きな寺であった。上方に定良と殉死者3人の墓石が4つ並んでおり、やや下方に養仙院の墓石が描かれている様子は現在と同じである。下方に建物も描かれているが、現在はそれらの建物は無くなって民家が並んでいる。



元文3年頃の円妙寺境内図（東北大学付属図書館所蔵の部分）

しかし宝暦年間（1751～63）に火災に遭って、建物は焼失してしまったので、松平（久松）家に移っていた奥州白川（現福島県白河市）に移った。ただ松平定良らの墓石は従来のまま桑名に残った。

大福田寺はもともと大福の地にあったが、大福は低い土地なので、しばしば水害に悩まされたため、寛文2（1662）年に現在の地に移転した。しかし、この地も谷間の窪地にあるので、条件の良い土地とは言えなかった。

松平（久松）家が宝永7（1710）年に越後高田（現新潟県上越市）へ移り、松平（奥平）家が桑名藩主となって、松平（奥平）家の菩提寺である天祥寺が大福田寺の東の丘陵地の上に建てられた。

そして文政6（1823）年に松平（奥平）家が武蔵忍（現埼玉県行田市）へ移ったが、天祥寺も忍へ移った。丘陵上の天祥寺跡地に大福田寺は移った。この時に松平（久松）家が白川から桑名へ再び移ってきた。同時に円妙寺も桑名へ来たが、元の建物は焼失していたので、大福田寺に移った後に入った。

ところが弘化4（1847）年12月に大福田寺と円妙寺が入れ替わって、大福田寺は元の窪地に戻り、円妙寺は丘陵上に移り、現在のような状態になった。丘陵上にあった大福田寺の墓地はそのままに残り、現在も存在している。

円妙寺は丘陵上の良い場所に移ったのだが、昭和20（1945）年の空襲で大半の建物は焼失した。山門だけが焼けずに現存している。江戸時代末の嘉永（1848～53年）ころの建築で、大工の棟梁は久根添源十郎である。一方、大福田寺は空襲の被害が少なく、古いたたずまいを今も残している。

参考資料

『久波奈名所図会』

『桑名志』

『桑名郡志』

「桑名日記」

『桑名町人風聞記録—豊秋雑筆—』

円妙寺所蔵「山門棟札」